



第63回 社会貢献者の記録



公益財団法人
社会貢献
支援財団

第 63 回

社会貢献者の記録

目次

社会貢献者表彰とは	3
表彰選考委員プロフィール.....	4
式次第.....	5
会長挨拶.....	6
来賓祝辞.....	8
記念写真.....	11
受賞者代表挨拶	12
表彰式.....	14
祝賀会.....	22
受賞者手記 目次	27
資料編.....	90

社会貢献者表彰とは

国の内外を問わず、社会と人間の安寧と幸福のために貢献し、顕著な功績を挙げられながら、社会的に報われることの少なかった方々を表彰し、そのご功績に報い感謝することを通じてよりよい社会づくりに資することを目的とする。

第63回社会貢献者表彰の概要

【募集告知】

2024年8月より、ダイレクトメール発送、海外フリーペーパー、当財団ウェブサイト等にて

【対象となる功績】

社会貢献の功績

【候補者について】

- ・候補者には、年齢・職業・性別・信条・国籍等の制限はない
- ・日本で活動する方、もしくは海外で活動する日本人を対象とする
- ・候補者は、同種の功績により当財団の「社会貢献者表彰」を受賞されていない方とする
- ・候補となった功績と同一または同種の功績により、既に国の栄典（叙勲、褒賞）または大臣表彰等を受賞されている方は、選考の際、後順位とされる

【選考について】

選考委員会開催日：2025年1月27日

【受賞者】

受賞者：30組

【表彰式】

開催日：2025年7月14日 帝国ホテル東京

受賞者には表彰状、副賞として賞金100万円を贈呈する

表彰選考委員プロフィール (敬称略・五十音順)



内館 牧子 選考委員長

脚本家、東北大学相撲部 総監督

脚本：「ひらり」「てやんでェッ!」「私の青空」「毛利元就」「エイジハラスメント」ほか多数

著書：「終わった人」「今度生まれたら」ほか多数

大武 健一郎 委員

元国税庁長官

認定NPO法人ベトナム簿記普及推進協議会理事長 名誉会長

著書：「平成の税・財政の歩みと21世紀の国家戦略」「税財政の本道一國のかたちをみすえて」ほか多数



小川 記代子 委員

産経新聞社 東京本社 編集局 編集委員

久米 信行 委員

明治大学 講師

著書：「メール道」「ブログ道」(NTT出版)「NPOのためのIT活動講座 効果が上がる情報発信術」「すぐやる人だけがチャンスを手に入れる」ほか多数



吉永 みち子 委員

ノンフィクション作家、公益財団法人民間放送教育協会 会長

「ワイド!スクランブル」コメンテーター

著書：「気がつけば騎手の女房」「性同一性障害」「26の生きざま」「老いの世も目線を変えれば面白い」「試練は女のダイヤモンド」ほか多数

第63回社会貢献者表彰 式次第

第一部 表彰式

10：30 … 開式

- 会長挨拶
- 選考委員紹介
- 表彰状の贈呈
- 受賞者代表挨拶
- 来賓祝辞

12：00 … 閉式

第二部 祝賀会

12：20 … 開会

- 乾杯のご発声
- ご歓談

13：30 … 閉会

(2025年7月14日 於帝国ホテル東京 本館3階 富士の間)

会長挨拶

社会貢献支援財団の会長を務めております安倍昭恵でございます。

第63回社会貢献者表彰式典を開催するにあたり、まずは受賞者を推薦くださいました皆様、日本財団そして、ご協力をいただいております関係各位に厚くお礼を申し上げます。

本日30組の表彰をいたしますが、受賞される皆様、そしてその活動を支えていらっしゃるご家族ならびに関係者の皆様に、心より敬意を表しますと共にお祝いを申し上げます。



私が2014年の6月にこの財団の会長に就任し、今年で11年を迎えました。その間に色々な出来事があり、忙しく過ごしているのですが、毎回この表彰式で受賞者の皆様にお目にかかりご活動の内容を伺うと、新しい発見や興味がわいて、そのご活動を実際この目で見たくなるのです。

今年の4月には秋田県で活動されている受賞者、NPO法人あきた結ネット、市川晋一医師、NPO法人光希屋（家）を訪問しました。

なかでも市川医師は、山手線内の4倍の面積で、人口4,000人、高齢化率47%の仙北市西木町でたった一人の診療所のお医者さんであることに驚きました。市川医師は医療機器や通信機器を搭載した車両を県内でもいち早く導入して、移動手段を持たない高齢者の受診の負担を減らしていらっしゃいました。車両での診察のデモンストレーションを見せていただき、市川医師が関係する高齢者福祉施設では先進技術の介護用品やシステムを拝見して、最新のテクノロジーで人口減少や人手不足による医療や介護の格差を補っていらっしゃる様子を視察して参りました。

5月にはカンボジアとタイに行ったのですが、子どもたちに関わる活動を行っている受賞者を訪ねることにしていたので、シムリアップで学校運営を行う「NPO法人アジアの子どもの就学を支援する会」と、HIVに感染している子どもたちのための施設、

チェンマイの「バーンロムサイ」を訪ねました。

また、チェンマイでは、カレン族の居住地にもお邪魔したのですが、彼らは自然と共生した農作を行い、山を大切に生きています。お金を生み出すことは不得意だそうですが、それもさほど必要ではなく、私たちより精神的に満たされて生きているように思えて、本当の豊かさについて思いを巡らせることとなりました。

こうして実際にお訪ねしてよくお話を伺うと、あの受賞者にこの受賞者をご紹介したいと思うことが頻繁にあります。実際に一緒にプロジェクトを行われた受賞者もいらっしゃるようです。本日受賞される皆様のところへもお伺いすることがあるかもしれませんので、その際はどうぞ宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、受賞者の皆様のご活動が、皆様の望まれる形に発展されますように、そしてご出席いただきました皆様のご健勝をお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

公益財団法人 社会貢献支援財団
会 長 安 倍 昭 恵

来賓祝辞

皆様こんにちは。

ただいま紹介いただきました日本財団の尾形でございます。会長に就任しましたのはひと月前でございます。私も先ほどの酒井さん同様非常に緊張しております。

日本財団は創設以来63年でございます。そして、創立50周年の時に私どもの仕事そのものが、大きく二つにわかれておりまして、一つは「海、造船、船」これは日本財団の原資でありますモーターボート競走法の一丁目一番地です。これは従来通りやっております。

それからもう一つ、陸のほうですが、現存する社会課題がすべて私ども日本財団の守備範囲でございますが、当然のことながら原資も人的資源も限りがございます。すべてに均等に対応するわけにはいきません。すべての資金を百等分して皆様にお配りするのは簡単なのですが、それではお金が生きた使い方にはならない。従いまして、創立50周年を迎えた際。当面の関心領域をどうしようかと議論を組織的行いました結果、最終的に残ったのが「来るべき大災害にてどんな対応ができるだろうか」、少子高齢化が極端に進んでおります「高齢者をどうしようか」、それから少子化を迎えた現在「子どもたちのことをどうしようか」、そしてもう一つは「障がい者をどうしようか」この四つを当面の関心領域の課題に掲げました。

例えば障がい者でございますが、今日びっくりしましたのはAlonAlonさん、障がい者の就労支援をおやりになっている。私どももそれを大きく掲げております。障がい者はちゃんと働けない、家庭の厄介者、障がいにも色々種類があります。身体障がいとか知的な障がいを抱えている方とかございますが、その後者の方についてはなかなか思い通りの自分自身の活動もできない。ただその人たちにちゃんと仕事を切り取って与えることで、その人が月々7万や10万という給料がもしもとれるなら、そのひとの家庭の位置が定まります。そして障がい者年金と併せると、生活保護のスパイラルから抜け出します。そして数年後には税金を払うようになります。それまで税金でお世話になっていた人たちが、これからは税金を払うようになる、その方々は一斉に自己肯定をはっきりと意識し、自分も世の中のためになっているのだということ



言い出しました。色々考えたのですが、今日本に無数の障がい者を取り扱っている授産施設がございます。もしも関係者がおられましたら少し語弊があるかもしれませんが、授産施設の平均賃金は月額1万5千円から6千円、かっこいいことを言って計算方法を変えたりしましてもやっぱり2万5千円くらいです。ところが一方で、授産施設で一人扱いますと行政から17万5千円、平均ですが、支給されます。でもこの費用は障がい者の賃金には充当できないのです。家庭内に於いても、自分たちの厄介者だから、だから朝9時から夕方6時まで送り迎えつけて預かってくれるならそれでいいという家族もいらっしゃる。そういう環境の中では決して障がい者はきちっとした給料をとることができません。私たちは何を考えたかといいますと、国会図書館で膨大な資料をデジタル化しようとしております。既にもう5年以上の実績があるのですが、ほとんどが大企業の寡占状態で使われておりまして、そこに私どもがそこからその仕事を切り取って全国の8か所の授産施設に分け与えました。デジタル化する機械も準備しました。そして結果10万以上の給料をとることができるようになりました。これは意外と知的障がい、精神的な障がいを抱えた方々にとっては意外と性に合っているというか、良い仕事だったと思います。

何が言いたいかと申しますと、世の中自分たちだけ良ければいい、障がい者を食いものにしているといったら語弊があるけれども、そういう社会が、自分たちはよいことをしているのだということ、でも今日の受賞者の方々の仕事を見て、私は本当に感激しております。その現場に行って私ども、もう一度勉強しなおす必要があるなと思いました。AlonAlonさんには本当に私自身が行って現場を見せていただきたいと思っております。

仙台で白石さんという方が、自分はB型施設の権利を全部返納して、障がい者を自分の職員として雇用しております。我々の事業の第一回目でしたが、AlonAlonさんが同じことをやっていたのです。私自身が残念ながら知らなかったことを恥じ入るばかりでございますが、本当に素晴らしいと思います。そしてほかの方々、子ども、子どもといってもいろんな問題があります。虐待を受けている子どもたち、望まれなくて生まれてきた子どもたち、最近ではヤングケアラー、これは私の時代ではヤングケアラーなんて普通でしたよ。だけどそれもやはり社会問題なのです。それを誰かがやらなくちゃいけない。無手勝流で誰かがやってきた。私は素晴らしいと思います。本当

に今日本の社会が色々な問題を抱えているにもかかわらず市井の中でこうして世の中のため人のためになっていらっしゃる方々がたくさんいらっしゃることを改めて認識して心強い思いがしました。

この社会貢献支援財団、前身が日本顕彰会という組織でございます。初代の笹川良一会長がこれをつくりました。本人から直接聞いたのですが「今の日本はやはり官尊民卑だよ。市井のなかには人知れず善行を重ねている方々がたくさんいる。そういう人たちを顕彰してあげたいんだ。誰からも認められずにも、密にやっている人たちはいる。そういう人たちを顕彰したいんだ」と仰ってました。私は今日の受賞者の皆様を見て、その思いがここに具現化されているなと思いました。

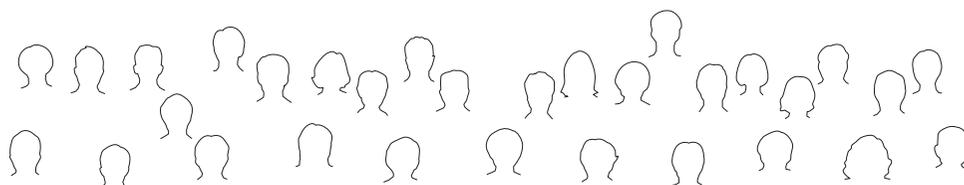
社会貢献支援財団は11年前から安倍昭恵会長の下で、そして歴代の会長の中で現在の会長ほど実際に現場に行ってみている方はいらっしゃらないと思います。感謝の言葉しかございません。ありがとうございます。

皆様方に改めて申し上げます。本当に本日はおめでとうございました。受賞者の方、そしてその受賞者を支えてきた方々、皆様方に改めまして、日本財団としてもお礼を言いたいと思います。感謝の言葉を申し上げます。皆さんと一緒にやっていきたいと思しますので、どうか、何かありましたら訪ねてください。うちの門戸は常に開いております。

長々と話しましたが、私が言いたいことは世のため人のため、もういっぺん、かつて良い日本で会った誇り高い日本、これをみんなとともにつくっていきたいと思っております。

本日は本当におめでとうございました。

公益財団法人 日本財団
会長 尾形武寿



- | | | | | | | | | |
|------------------------------------|-------------------|-----------------------|-----------------------|-------------------------|--------------------------|-------------------|-------------------|------------------------|
| 日本フオレシニックヒューマン
ケアセンター
片岡 笑美子 | アスイク
大橋 雄介 | JFCネットワーク
鈴木 雅子 | 男の介護教室
河瀬 聡一朗 | スマサポートセンター
佐藤 仁孝 | ローランス
福寿 満希 | 無国籍ネットワーク
秋山 肇 | アイキャン
鈴木 真帆 | ぴあらいふ
中岸 真実 |
| そらいろプロジェクト京都
赤松 隆滋 | つなぐ子ども未来
安藤 綾乃 | 無戸籍の人を支援する会
市川 真由美 | レスキュースタッフヤード
栗田 暢之 | 若者サポートnanairo
増田 真由美 | CROP. i-MINORI
中山 須美子 | レガートおわた
石井 さわ子 | AlonAlon
那部 智史 | NEXTEP
島津 智之 |
| あおもり被害者支援センター
田崎 博一 | カラカサン
西本 マルドニア | 名南病院
早川 純午 | エンバワメント輝き
大光 テイ子 | 社会貢献支援財団
会長 安倍 昭恵 | 青少年の居場所
キーツ
白旗 眞生 | RAFIQ
田中 恵子 | なでしこの会
村松 和子 | ハートinハートなぐん市場
吉田 良香 |
| | レジリエンス
西山 さつき | | | | | 酒井 和枝 | | |

受賞者代表挨拶

社会貢献者表彰を受賞した皆様の代表として一言、ご挨拶を述べさせていただきます。本日はこのような大変名誉ある賞をいただき、心よりお礼を申し上げます。

また、ご推薦頂きました、関係者皆様方々、そして日本マレーシア協会様の長年のご理解とサポートに対し、心より深く感謝申し上げます。

1995年から始めた、ボルネオ島サラワク州での熱帯雨林再生の植林活動が今年で30年目という節目に、本日このような形で光を当ててくださったことに感謝でいっぱいです。

そして、この度は、私の住むサラワク州で、2000年から25年間一緒に活動を支えてくれている、イバン族のイキンさんと、2005年から20年間、ビダユ族のまとめ役として活動を支えてくれているビンセントさん、現在、現地で私の活動をサポートしてくれている娘を同行できた事を嬉しく思います。

イキンさん、ビンセントさんは生まれて初めての飛行機、そして初めての海外行きの長いフライトで、緊張して一睡もしないまま日本に到着しました。

二人の日本の第一印象は“日本という国はサラワク州より暑い!!”でした。想像がつかない方がこの会場には多いと思いますが、本当に日本の夏は暑いですね！本日の式典に彼らと一緒に受賞する喜びを深く感じております。

私は、1976年に日本から東マレーシア・サラワク州に渡航し、今年で在マレーシア49年となり、来年で半世紀を迎えます。

私は、100%ボルネオ島サラワク州内で活動しています。その多くは日本マレーシア協会を通じてご協賛やご協力いただきました企業や団体などを受け入れ、コーディネーターとしてサラワク州政府関係や地方自治体との調整、植林地場所の特定や、植林活動に携わって頂く近隣の村の人たちとの準備を行い、熱帯雨林の再生活動を進めています。現場の状況を確認し、潤滑に植林を進め、気が付けば早30年という歳月でした。この30年の間にはもちろん沢山の反対運動や問題などもありましたが、地に足を付け、同じテーブルで言語もあやふやな中、身振り手振りで説明し、“心で会話する”つもりで話し合い、少しずつ地元の人たちと心を通わせることができました。今では近隣の



小中高の生徒や大学生を含む人たちが継続的に植林に参加してくれています。そういったことがサラワク政府にも認められ、マレーシアで初めての森林保護区からボランティアの人たちが作った国立公園として政府に認められました。そして、2016年、2018年に2か所が国立公園として承認されました。

これは一重に日本やサラワク州の多くの方々の協力と理解が無ければ成し遂げられなかったと、いつも思いながら感謝の気持ちで日々の活動を今も続けております。

長年の活動の中で今、感じることは、沢山の人のお力をかりて植林を行った広大な地域の成長を見守り、それを更に環境や生態系の回復につなげていくことへの重要性です。2024年から始まった日本財団ボランティアセンターの学生さんたちとの“オランウータンの森作り”プログラムは、その大きな後押しとなりました。

今は先住民の若者と共に、“将来この森をオランウータンが住める場所にしたい”という意気込みで、活動に新しい力を頂いたと思っております。

私は森の話をしだすと長くなりそうなのでこの辺で終わりにしたいと思います。(笑)

最後になりますが、ここに同席の受賞者の皆様の素晴らしい活動をお聴きして、今後も地道にボルネオ島の先住民族の人たちとの熱帯雨林再生活動を“現地の若い次世代が自発的にできる活動”につなげていきたいと、新しい夢を描いております。

本日はこのような貴重な機会を頂き、本当にありがとうございました。

酒 井 和 枝

表彰式

















祝賀会

乾杯のご発声

受賞された皆様方、本日は誠におめでとうございます。

私ども選考委員一同、皆様方の活動は書面で全部拝見させていただいております。いつもそのたびに国の内外で、あらゆる分野で様々な活動をされている皆様方に、本当に深い敬意をもって、今日皆様とお目にかかるのを楽しみにしてまいりました。

実際にお目にかかって改めて活動の内容をお伺いしておりますと、素晴らしい活動に改めて頭が下がる思いがいたします。もし皆様方の活動がこの世の中になかったら、社会はもっともっと灯りの乏しいものになっていくのではないかと思います。

国際的にも非常に厳しい情勢が続いておりますし、日本の状況もかなり物価高とか、今正に選挙の争点になっておりますが、皆様方の活動にもこの状況というのは良い影響ではなく、大変厳しい状況がこれから先ふりかかってくるのかなと思いますが、皆様にはお元気でこの活動を続けていっていただきたいなと心から思っております。そのためには皆様が元気で明るくいていただくのが一番良いのかなと思います。

いつも委員長が仰っていることなのですけれども、賞金を皆様は活動に使いたいと思うかもしれませんが、どうぞご自身のために使ってくださいというのが歴代の委員長からので伝言でございます。これで皆さんがエネルギーをチャージしていただいて、新たな活動に向かって言っていただきたいな、というのが私どもの願いでございます。この時間が元気のための素になって、様々な人とのつながりによって新たな局面も開けてくるといった局面もあるのかと思いますので、ぜひこのひと時をそのような場に使っていただけたらと思います。

それでは皆様方の益々のご健康と、活動がこれからもつつがなく成長していかれることを祈念いたしまして、盃をあげたいと思います。

ご唱和ください。

乾杯。



表彰選考委員 吉永 みち子







